

社会 第5学年 工業生産とわたしたちの暮らし 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。日本文教出版の年間指導計画にある「くらしや産業を支える工業生産」に対応した独自案。教材本文・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

本案で見るのは、児童が「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」に対し、資料の事実と考えを区別して答えられるかである。我が国には様々な工業があり、工業製品は国民生活の向上に役立っているというまとめを暗唱できるだけでは、本時の目標に届いたとは判断しない。工業製品を用途と種類で分類し、工業の盛んな地域の地図を港や交通網の地図と比べる。生産額など統計の意味を確かめ、身の回りの製品と全国の生産地域を結び付ける。根拠の指し示し方や説明の修正をすることで、教師は次に何を確かめればよいかを判断できる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年〕(3)	(3) 我が国の工業生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔第5学年〕(3)ア(7)	(7) 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。
〔第5学年〕(3)ア(エ)	(エ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
〔第5学年〕(3)イ(7)	(7) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

単元の目標

我が国には様々な工業があり、工業製品は国民生活の向上に役立っていることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。((3))

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国には様々な工業があり、工業製品は国民生活の向上に役立っていることを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①くらしや産業を支える工業生産の学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

単元の流れ

日本文教出版の年間指導計画の配当「全4時間」を参照。全4時間はcatalog収録の標準配当。以下の各次への配分と本時の位置は本資料の授業案であり、出版社の授業配当の転載ではない。学校の年間計画と観察・調査の進み方で調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○身の回りの工業製品を分類する。 ○工業の種類と用途を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	2	○生産地域の分布を地図で読む。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	3 (本時を含む)	○交通や土地利用との関係を考える。 ○暮らしと他の産業を支える役割を話す。 ○工業製品を用途と種類で分類し、工業の盛んな地域の地図を港や交通網の地図と比べる。生産額など統計の意味を確かめ、身の回りの製品と全国の生産地域を結び付ける。	思①（個人の説明・記録）
第4次	4	○工業生産の概要を説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）



本時の案

本時の目標：「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「身の回りの工業製品を分類する」ときの疑問を取り出す。 ○「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・我が国には様々な工業があり、工業製品は国民生活の向上に役立っているのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・統計の年度・単位・範囲を確認する。企業名の知名度を地域の工業の大きさと置き換えない
展開 （ 分）	○工業製品を用途と種類で分類し、工業の盛んな地域の地図を港や交通網の地図と比べる。生産額など統計の意味を確認し、身の回りの製品と全国の生産地域を結び付ける。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・交通や土地利用との関係を考えることで、理由を確認めたい。	・大きな工場がある所だけが工業地域と考える場合、中小の工場や多様な製品も資料で示す。工場数と生産額の多さを同じものとして扱わない ・結果に合わない意見も記録へ戻る材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思①「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）
まとめ （ 分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】我が国には様々な工業があり、工業製品は国民生活の向上に役立っている。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確認し、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

板書の構造

上段に「くらしや産業を支える工業生産」と本時の問い「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。交通や土地利用との関係を考える際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

つまずきやすい所と手当て

大きな工場がある所だけが工業地域と考える場合、中小の工場や多様な製品も資料で示す。工場数と生産額の多さを同じものとして扱わない

準備するのは、学級で使う実物や資料と、対象・条件・時期を対応させて残せる記録用紙である。教師は事前に資料の出典や器具の働きを確かめ、児童に渡す記録と教師の説明を区別する。統計の年度・単位・範囲を確認する。企業名の知名度を地域の工業の大きさと置き換えない

本時の評価で説明と根拠が結び付かない場合は、言葉を追加して教え込む前に、比べる対象がそろっているかを見直す。口頭では説明できるが記述が難しい場合は、図と指差しも証拠として残す。

プリントの案

くらしや産業を支える工業生産の問いと記録

上段は「調べたいこと」と「最初の考え・理由」。中央は対象、条件・時期、分かった事実、確かめた方法の欄。工業製品を用途と種類で分類し、工業の盛んな地域の地図を港や交通網の地図と比べる。生産額など統計の意味を確かめ、身の回りの製品と全国の生産地域を結び付ける。下段に事実から考えた説明と残った疑問を書く。教材本文・写真は印刷せず、利用できる実物や公的資料の出典を書き入れる。

説明を確かめ直すカード

問い「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」への自分の答え、根拠の記録、友達の説明との共通点・相違点、修正した箇所と理由の欄を設ける。修正しない場合も根拠を確認した理由を書く。文字を書く代わりに図や口頭説明の記録も使える。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）。本文は取得済みの文部科学省表V1.2と照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会。評価の観点と記録を用いる考え方を参照。事例の文章は転載していない。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_shakai.pdf）／日本文教出版年間指導計画。単元名・配当時数・掲載時期の出典。（https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/s-shakai/download/r6/r6_shakai_nenkei_5.xlsx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

